

Tommy Bengtsson and Osamu Saito (eds.)

*Population and Economy: from Hunger to Modern Economic Growth*

Oxford University Press, 2000, 499pp.

表題からだけでは分かりづらいが、キーワードは「マルサス」と「歴史人口学」である。本書は、1. J.L.Simon 「生活水準の近代的な進歩は何によって開始させられるのか」 2. R.Schofield 「イングランド (1540～1834年) において生活水準の変動に対応した人口の短期的・長期的影響」 3. J.Z.Lee,W.Feng,L.Bozhong 「中国 (1700～2000年) における人口、貧困、生活」 4. M.Anderson 「19世紀スコットランド農村部における人口成長と人口調節」 5. K.A.Lynch 「ヨーロッパの歴史における乳児死亡率、育児放棄、遺児：比較分析」 6. M.R.Haines 「マルサスと北米：合衆国は人口経済危機にさらされたのか」 7. D.S.Reher,J.A.O.Osona 「マルサス再考：ヨーロッパの歴史における経済と人口との中期的相互作用について」 8. A.Palloni,H.Perez-Brignoli,E.Arias 「ラテンアメリカにおけるマルサス：19, 20世紀における人口変動」 9. E.A.Hammel,P.R.Galloway 「18, 19世紀クロアチア、スラボニア、スレムにおける短期の予防的妨げに作用した構造的要因」 10. J.A.O.Osona 「死亡率を変動させる歴史人口学的決定因およびそのミクロ的・マクロ的帰結」 11. T.Bengtsson 「不平等なる死：南スウェーデン (1765～1865年) における農業革命の効果」 12. G.Alter,M.Oris 「死亡率と経済圧力：19世紀ベルギーの一つの村における個人の反応と世帯の反応」 13. C.D.Campbell,J.Z.Lee 「中国農村部の二つの民族における物価変動、家族構造、死亡率：18, 19世紀遼寧省における経済圧力に対する世帯の反応」 14. 津谷典子, 黒須里美 「近代初期の日本における短期的経済圧力への死亡率の反応と世帯の状況：東北地方の二つの村に関する実証研究」 15. M.Breschi,R.Derosas,M.Manfredini 「19世紀イタリアの乳児死亡率：エコロジーと社会との相互関係」の15編の論文によって構成される。初めに、マルサス人口論、特に「積極的妨げ」と「予防的妨げ」という二命題の現代的な適用可能性について、第一に、第1～8章では、ヨーロッパ、アメリカ、アジアにおいて比較的長期の時間軸で実証的に分析し、続く第9, 10章では、物価や賃金などの経済変数を特定して、それらと死亡率・出生率との関係を短期的な視点で実証分析している。第二に、第11～15章として、歴史的に種々の経済圧力が個人や家族に及ぼす影響を調べるため、資源と人口変動との関係というマクロの対象を、近年発達してきたミクロ的なライフサイクルの分析手法を用いて研究することで注目を集めている人口家族史ユーラシア・プロジェクト (EAP) による成果が披露されている。一見分離しているともみられるこれら二つの部分であるが、後半部も前半部ほどではないにしても、その理論的根拠はマルサスに依拠しており、いわばその考え方の各地域における事例研究とも言えるものであるため、本書全体の一貫性はとられている。

マルサスの「人口論 (初版)」が世に出ておよそ200年。その間、人口学者は、陰に陽にマルサス人口論を意識しつつ、理論を構築し、現実問題を分析してきた。当然、マルサス人口論をめぐる研究書はあまた多くあるが、本書ほどに、マルサス人口理論の歴史的妥当性ならびに現実的適用性に焦点を当てた実証研究文献は貴重である。ただ、我が国では南亮三郎によるマルサス人口原理の解釈としてはっきりと区別された「波動思想」と「均衡思想」が、ホメオスタシスとして一まとめとされていることに若干の違和感を覚えるものの、本書の主題である「妨げ」に関する実証分析の特長はその難点を補って余りあるものと大いに評価したい。特に、EAPの諸論文では、古典的な家族復元法はもとより、イベント・ヒストリー分析など高度な統計分析によって初めて得られた知見も多く、歴史人口学の、統計的手法に関する積極さ、柔軟さにいつもながら敬服させられる。

なお、評者も関わっているため推しづらいのであるが、本書の主題に関心のある向きには、類書として岡田・大淵編「マルサス人口論の200年」(大明堂, 1998年)をお勧めしたい。

(和田光平 / 中央大学経済学部)